

安心救急ネット京都通信

安心救急ネット京都は、AEDの設置促進と応急手当の普及啓発を推進する京都市内の事業所ネットワークです。

発行：安心救急ネット京都事務局【京都市消防局 消防学校教育管理課075-682-0131】



水の事故に注意！

気温が高くなると、川・海・湖などで遊ぶ機会が増え、それに伴って水難事故の発生件数も増加します。水辺にはどのような危険があるのか、事故を防ぐためにはどのような準備が必要なのかを知ることが大切です。

川 には、水の流れがあります。一見穏やかに見える川でも、浅いところと深いところ、カーブの内側と外側では流れの速さが変わるなど、複雑な流れが発生している場合があります。また、天気が晴れていても、川の上流の降雨やダム放流による急な増水には注意が必要です。

人工的に造られた用水路（農業用、上水道等）は、街中にもあるため、歩行中や交通事故による転落、大雨で道路が冠水した際に、道路と用水路との境目が分からなくなることで転落する危険があるため注意が必要です。

水の流れのある川に転落した場合、流れによって体勢が保てず、泳ぎに自信がある人でも浮き上がることができなくなることがあります。

海・湖 は、深さなどによって水温の変化が大きい場所や、急に深くなる場所があります。また、海では、離岸流（岸から沖へ向かって一方的に流れる速い流れ）や高い波、激しい流れにも注意が必要です。

場所によっては、監視員やライフセーバーが配置されず、安全が確保されていないことがあります。

水の事故を防ぐために

- ① もしものときのために、緊急時の対処方法や事故予防について家族や友人たちと話し合う
- ② 水に入る前は、体調を整える。体調が優れない場合は水に入らない
- ③ 目的地の天気（川であれば上流の天気も）、波の高さ、満潮干潮時刻、風、気温等を事前に調べる
- ④ 危険な場所（「立入禁止」「遊泳禁止」の表示がある場所）ではないかを確認する
- ⑤ 監視員・ライフセーバーの有無を確認する
- ⑥ 体格に合ったライフジャケットを必ず着用する
- ⑦ 子どもだけで遊ばせず、必ず大人が付き添い、絶対に目を離さない（溺れる人は、助けを求めることができず、静かに溺れることが多い）
- ⑧ 溺れた人を発見したときは、大声で周りの人に助けを求め、119番通報やAEDの手配を行う
- ⑨ 溺れている人に、救助ロープや浮力のある物（2リットルのペットボトル等）を投げ入れる
- ⑩ 溺れた人を引き上げたときは、心肺蘇生法の手順に従い反応や呼吸の有無を確認する



AEDのモード・電極パッドの呼称について

心肺蘇生法等の基準をまとめたJRC蘇生ガイドラインは、5年ごとに最も効果的であるとされる内容に改訂されます。現在、最新版であるガイドライン2020では、AEDのモード切替や電極パッドの呼称が、「未就学児用」モード・パッド、「小学生～大人用」モード・パッドに変更されています。（対象年齢に変更はありません）

既に設置されているAEDのうち、新呼称に対応していないものについては、製造販売業者からラベル・シール等が提供される予定です。詳しくは製造販売業者にお問合せください。



対象	ガイドライン2015	新 ガイドライン2020
未就学児 (小学校に入る前の子供)	小児用モード・パッド	未就学児用モード・パッド
小学生以上	成人用モード・パッド	小学生～大人用モード・パッド



AEDの日常点検をお願いします

- インジケータの確認
- 電極パッド・バッテリーの有効期限の確認